



水の学校

武蔵野市 水環境連続講座

News Letter



2015年3月発行(2014年度最終号)
発行元:「水の学校」事務局
tel: 0422-60-1867
http://www.city.musashino.lg.jp

facebook「武蔵野 水の学校」
最新情報配信中!

武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは?

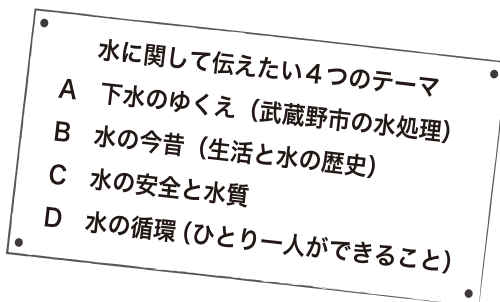
「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える7回連続のシリーズ講座です。くらしの中の身近な水循環、上下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。

連続講座レポート 最終回・修了式「水の学校」が考える水の未来

1/24(土)に、第7回連続講座「修了式『水の学校』が考える、水の未来」を実施しました。最終講座となるこの回では、初回講座で講師を務めていただいた橋本淳司さん(水ジャーナリスト・アクアコミュニケーター)を迎え、第6回で出てきた4つのテーマごとに作った「水の学校」の未来のプログラム案をPRチラシの形にまとめました。

前半のグループワークに続いて行われた成果発表には、武蔵野市長、第5回講師平田英二さん他、一般の観覧者も加わり、感想やよりよいプログラムにするためのアイデアを出し合いました。

発表・意見交換後には修了式を行い、邑上市長より修了証、橋本淳司さんから修了バッジが一人一人に贈呈されました。来年度以降の講座のヒントが詰まった、4つグループからのプログラム案をご紹介します。



A「下水のゆくえ(武蔵野市の水処理)」

「楽しく見ながら楽しく学ぶ『蘇る水と桜の見学会』と題した2回シリーズのバスツアーを企画。タイトルを大きく載せたチラシでアピールしました。

第1回は、桜の時期に大正時代の遺構・旧三河島汚水処分場見学、第2回は砂町水再生センター見学という内容です。お花見と組みあわせることで「楽しみ」ながら見学ができ、下水処理の今昔についても学ぶことができます。

他のグループや観覧者からは「桜をツアーに組み込むことで参加者の幅が広がっていいと思う」、「昔を知ることで今のこともよく見えるようになる良い企画だと思う」「チラシに施設の見所をいれるともっといいのでは」といったコメントがありました。

C「水の安全と水質」

「水の魔力 おいしい武蔵野の水を知っていますか」という親子向けの夏休みイベントを考案しました。

実施メニューは、「徳川家康もビックリ!?な武蔵野の水」と題し、水質について知ることのできる講座や「きき水体験」、「水を変えて淹れたコーヒーの飲み比べ体験」などバラエティに富んだ構成です。

みなさんには印象深いタイトルが大変好評でした。「水の安全は説明だけでは実感しにくいので、体験して学べるのはとても

よいと思う」「チラシのクオリティが高い!」というコメントや「子ども向け企画なので、コーヒーだけではなくかき氷も用意したらどうか」という提案がありました。



B「水の今昔(生活と水の歴史)」

「むさしののはたらく水 —武蔵野市に「川」が沢山あったことを知っていますか?—」という目を引くタイトルの3回連続講座を企画しました。

第1回「玉川上水周辺のまちあるき」、第2回「『水の力』でつくった粉でうどんづくり」、そして第3回「昔の水の使い方を聞いてみよう」と続きます。食と絡めることで、より幅広い層の参加をねらうと共に、昔から武蔵野市に住んでいる方を語り部として招き、交流を深めます。

「人々が水とどのように関わってきたかを学ぶことで水の大切さを再認識できてよいと思う」、「水車でひいた小麦で作ったうどんを食べてみたい」といったコメントが寄せられました。

D「水の循環(ひとり一人ができること)」

「水は生きている 水と友達になろう」というタイトルで、今年度実施した奥多摩水源地ツアーにアレンジを加えた企画を提案しました。ツアーには「水の流れは命の流れであること」を実感してもらいたいというねらいがあり、参加者は体験し学んだことをもとに、個人、またはグループでできること、武蔵野市民を巻き込んでいけることを考え、最終的には水辺で憩い、水に親しむ市民活動を生みだそうという発展性のあるプロジェクトになっています。

「伝えるアイデアが素晴らしい!」「今年よかったところを活かすことはとても良いと思う」というコメントや「武蔵野市の水循環を見える化するのには難しいテーマですね」という感想がありました。



水コラム no.7:

武蔵野市の
地下神殿!?

吉祥寺東町一丁目合流式下水道改善施設へ潜入

2/7(土)に、環境部下水道課主催イベント「武蔵野の水はどこへ?～下水道の環境改善を知る大人の社会科見学」が開催されました。吉祥寺東町一丁目に新たに設置された合流改善施設を稼動前に見学できる貴重な機会とあって51名もの市民の方に参加いただきました。

「合流式下水道改善施設」とは?

武蔵野市の下水道は、昭和27年という他の市町村と比べて早い時期から整備が始められ、およそ9割が雨水と汚水を一緒に流す合流式下水道となっています。

合流式下水道は、雨水と汚水を別々の管で流す分流式下水道と比べ、早くまた低コストで設置できるメリットがある一方で、一定以上の雨が降った際に処理しきれない下水が未処理のまま河川に放流されてしまうというデメリットもあり、河川や海の水質への影響が問題となっています。こうした未処理の下水を一時的に溜め、放流される量を減少させることで、河川や海の水質を改善するためにつくられたのが、「合流式下水道改善施設」です。平成24年から約3年かけて吉祥寺東町一丁目に整備された合流式下水道改善施設は、深さ・幅・高さすべて約30メートルあり、地下に武蔵野市役所の西棟に匹敵する巨大な地下空間が広がっています。

参加者の方からは「こんな大きなものが地下にあるなんて知らなかった!」「武蔵野市にも地下神殿があったのか」という驚きの声や「この施設のことや、施設をつくった目的について、もっとたくさんの人に知ってほしい」「息子や孫にも見せてあげたい」という声がありました。



1/17(土)、関連イベントを開催しました! クリーンセンター環境講座「廃油キャンドルをつくろう!」

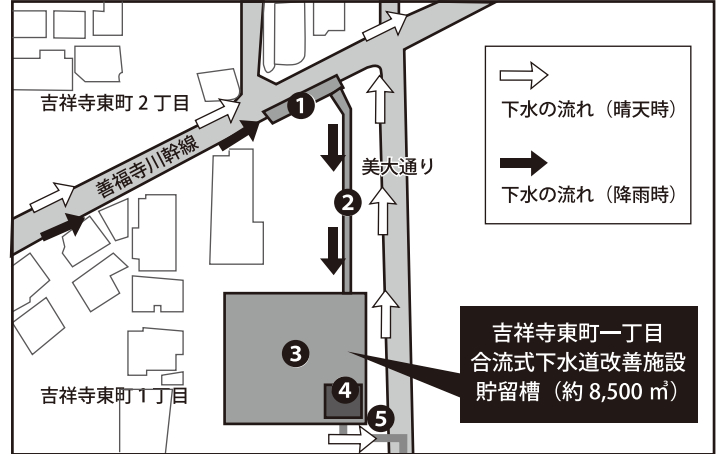
武蔵野市の水に関わる様々なセクションと連携して開催している「関連イベント」。今回は、環境部クリーンセンター主催の環境講座で廃油と下水の関係についてお話ししました。講座は親子連れなど39名でにぎわい、家庭から出る使用済み油を使ったキャンドルづくりを通して、廃油と下水の関係や廃油のリサイクルについて考えました。

キャンドルを固めている間に、クリーンセンターで家庭から出るごみがどのように処理されるかを見学しました。

切っても切れない、下水と油の関わり。

家庭から出る廃食油をそのまま下水に流してしまうと、下水道管の詰まりや悪臭の原因になります。また、武蔵野市では大雨のときには処理しきれない下水の一部が川へ流れ込んでしまうため、川の水を汚す原因にもなります。家庭から出る使用済み油は市で回収を行っていますが、今回は参加者の方に持ってきていただいた油を使って、簡単リサイクルに挑戦しました。廃油は汚れを落とした後、加熱し、市販の凝固剤とチップ状のロウをまぜて、容器に小分けして固めます。固まる前にクレヨンを削ってまぜることで、思い思いの色をつけたオリジナルキャンドルができあがりました。

合流式下水道改善施設のしくみ



- ① 分水人孔 (ぶんすいじんこう)：降雨量が1時間あたり2mmを超えると、既存の下水道である「善福寺川幹線」から下水が流れ込みます。
- ② 導水渠 (どうすいきょ)：下水を受け、貯留槽に導きます。
- ③ 貯留槽：下水を下段から貯留します。
- ④ ポンプ設備：貯留した下水を、晴天時にポンプでくみ上げます。
- ⑤ 放水管：下水を従来の下水道管に放流し、善福寺川幹線に戻します。

クリーンセンターで家庭ごみのゆくえを見学。

クリーンセンター見学では、燃やすごみを集めたピットや焼却炉などを順番に回りました。ピットには1日約100tのごみが集まり、焼却炉が24時間稼動して処理を行っています。850～1100℃の高温で処理をしていて、小窓から見たごみの燃える様子は迫力満点!燃やすときに出る熱を蒸気へ変えて、隣接している市役所や総合体育館の冷暖房などに有効利用しています。

クリーンセンターは、現在敷地内東隣に新しい施設を建設中で平成29年4月から稼動を予定しています。

「水の学校」は2015年度も開校します!

「水の学校ニュースレター」をお読みいただきありがとうございます。「水の学校」は、2015年度も水に親しみ、水を考える講座として開校予定です。詳細は5月上旬以降、チラシ・市報などでお知らせいたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております!

